

令和3年度 消防団危険予知訓練（S-KYT）研修が行われました

令和3年11月20日（土）滋賀県消防学校 錬成館に場所をお借りし、消防団員等公務災害補償等共済基金のご協力の下、消防団危険予知訓練（S-KYT）研修が行われました。

講師には、消防団員等公務災害補償等共済基金 S-KYT 指導員の、
傳平 益三（でびらますぞう）様、南川 義信（みなみかわ よしのぶ）様、山下 聡（やました さとし）様、瀬川 巖（せがわ いわお）様、石田 圭三（いしだ けいそう）様、をお招きし、約4時間にわたり、講義や実技、DVD上映等で安全活動を学ばれていました。

S-KYT研修とは、これからリーダーとして活躍される団員様を対象に、消防団員の安全活動のための様々な手法を経験し、日常の現場で危険に対する予知能力を高め事故を未然に防止するための訓練です。

研修では、67名が13チームに分かれ、チーム単位の自己紹介の後、講師による講義、消防団員安全教育（S-KYT編）のDVD上映がありました。

実技1では「指さし呼称」「指差し唱和・タッチ&コール」という、一人一人が消防活動を安全に行うために、活動の要所要所で行う「確認行動」の有効な方法の1つで、それぞれチームごとに分かれ、「ヨシ！」と気合いの入った掛け声で実践されていました。

実技2「健康自己チェック」「健康問いかけKY」でリーダーはメンバー1人1人の健康状況を観察、具体的な問いかけ方法を学び、午後からの実技3では、イラストシートを用いて、活動現場に潜む様々な危険を見抜くシュミレーションで、各チームごとに意見を出し合いました。

その後、各チーム毎にS-KYTレポートで、危険要因、危険のポイント、危険のポイントに対する具体策、チームの行動目標を記載し、意見発表が行われました。

昨年度より、新型コロナウイルス感染拡大防止を鑑み、通常より広い会場にて換気やマスク等の装備、消毒等感染症対策で、大きな声が出せない、距離をとるためお互いにタッチ等が出来ないなど、例年よりもご不便をおかけした研修となりましたが、講師の先生方の的確な指示の下、参加された団員の皆様は、真剣に聞き入り、メモを取るなどされており、一日を通して様々な手法や予知の仕方を学ばれ、チームとしての一体感・連帯感を高められていました。皆様、大変お疲れさまでした。



SKYT 講師 傳平 益三 様



SKYT 講師 南川 義信 様



SKYT 講師 山下 聰 様



SKYT 講師 瀬川 巖 様



SKYT 講師 石田 圭三 様





